（別紙４）

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2472500137		
法人名	社会福祉法人　はまゆう会		
事業所名	グループホーム　フルハウス		
所在地	三重県津市香良洲町１９００－１		
自己評価作成日	令和4年7月3日	評価結果市町提出日	令和4年8月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=2472500137-00&ServiceCd=320

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人　三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和　4　年　7　月　20　日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

コロナ禍にて今まで通り行事を行えない為、職員間で話し合い、今年度からは行事のあり方を変え行っている。（室内にての花見、ホーム横でのレクリエーション等）利用者様には、自分で出来る事は自分で行えるよう援助し、食器拭き・洗濯干し・洗濯畳み・昼食の味噌汁作り等を職員と一緒にして頂いております。朝食は栄養士さんと相談しながら、利用者さんの要望の多い、魚を多く摂り入れています。乳製品は毎日提供し、不定期ですがメニューに合わせて、炊き込みご飯・混ぜご飯等、厨房からの食事に手を加えたり、盛り付け、器（弁当箱・重箱等）を普段と変え、工夫しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

伊勢神宮皇大神宮の天照大御神の妹神を祭る香良洲神社が近くにあり、地域は勿論、利用者にも大事な神社である。先日は1年に1度の「香良洲の輪くぐり」へ出掛け、健康を祈った。事業所の廊下にはお木曳の写真があり、自分の生まれた地域の山車の前では会話が弾んでいる。2003年4月の開所から19年、昨年10月に就任した管理者、平均介護度が2以下の利用者9名、更なる伸びしろが期待できる職員たち、その仲間たちと今迄の歴史を見直し新しいビジョンを考慮中である。今まで培ってきた生活を基盤に家族や地域の協力を仰ぎながら、利用者の今迄とは違う生きがいや張り合いを引き出し、更なる幸せな生活が送れるよう進み始めた事業所である。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有はできているが、コロナ禍にて、家族や地域社会との繋がりが取りにくくなっている状態である。	日々の生活の中で常に利用者の想いを一番に事業所全体で取り組んでいる。「利用者が持っている力を発揮し自分らしい生活が出来るよう支援する」と言う理念に添っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍にて、現在は一部の人しか交流が持てていない状況である。	法人は同敷地内に多数の事業所を持っており、長きに渡り地域との交流が行われている。協力的でもあり安心にも繋がっている。コロナ禍で今は挨拶程度になっているが関係性は強靭である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホーム個人での活動はできていませんが、法人として第三者委員会を行い、地域の方に話をさせて頂く機会は設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議がコロナ禍の間行われておらず、今年度4月より文書にて意見を頂くように取り組んでいる。	コロナ禍で開催は行われていないが、書面にて人事異動、事業所での行事や取り組み等の近況報告などを行っている。それに対して事業所への要望や意見などが返信され、サービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	積極的に行政に行き分からない事を教えて頂いたり、パンフレット等をもらいに定期的に伺っている。	管理者が就任して間もない為、市町への相談は電話や訪問で頻繁に行われ双方に役立っている。今回の外部評価や運営推進会議の進め方なども協力を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的(3か月に1回)に身体拘束委員会を開いている。状況により、一時的に玄関の施錠を行う場合もある。	身体拘束防止委員会と共に虐待防止についても「自己チェックリスト」を利用し、研修や話し合いを職員会議やケア会議で行っている。資料や議事録、参加職員の記録等ファイルし、実践に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止に向けた自己チェックリストを元に、その時々に合わせた内容を、職員間で毎月話し合う機会を設けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在支援の必要な方はおらず、学ぶ機会も設けていない。今後の為にも柔軟に対応できる体制を築いていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実態調査や契約の際に、運営や対応について十分な説明を行い、利用者様・家族様の不安、問題点を聞き取り、理解し、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月お便り・新聞を家族様に送り、定期的に電話をし、利用者様の必要な物、生活の様子等をお伝えし、来訪時には家族様の要望、相談を受けている。	管理者の挨拶も兼ね、連絡や相談は電話等で頻繁にしている。今はコロナ禍であるが、毎月の新聞や便りで利用者の様子や事業所の近況を発信しており、家族からはとても好評である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を行い、必要に応じて緊急会議を開いたり、申し送りノートや回覧を利用している。	管理者は、どんな決め事も職員と相談し決めるように心掛けている。また職員に出来る事は任せるようにしている為、やりがいを感じているとの意見も聞かれる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員評価制度を取り入れており、その際には全職員と管理者が面談を行っている。（希望者には、理事長との面談も可能としている。）年間の担当業務を決めたり、会議の議事録は順番に持ち回りで行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域密着サービス協議会の研修には、毎回、順番に職員が参加しており、三重県社会福祉研修センターの研修概要も職員の分かる所に置き、周知してある。介護福祉士に関しては、施設が全面バックアップを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加し、ZOOMで他事業所とディスカッションしたり、研修報告書を作成し、他の職員にも研修内容を周知している。管理者は、不定期ではあるが他の事業所への訪問を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には必ず、家族様・ケアマネージャー等に情報を得て本人様の生活環境に出向き、実態調査を行い、不安・要望を聞き取っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査の段階でしっかりと時間を取り、家族様の不安・要望を聞き、ホームでの生活の説明を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査の際、計画作成者が同席し、必要な支援を見極め、ケアを行えるように取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームで行う洗濯・炊事等、利用者様個々に合った事をお願いしたりしている。一部の利用者さんは、声掛けをしなくとも、ご自分から参加されたり、職員に「することないの」と聞かれる利用者さんもみえ、何かしらの仕事をお願いしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便り、ホームの新聞、施設のホームページで本人様の様子を伝えている。家族様とは訪問時や電話で、本人様の要望・様子をお伝えしており、ビデオ通話も可能としているが、利用される家族様は今はおられない。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍にて面会が出来ない状況であるが、ドライブやレクリエーションを通じて馴染みの場所との関係が取れる様に支援している。	現在は交流は薄いが、近所に図書館・保険センター・パターゴルフ場・プールなどが備わった津市サンデルタ香良洲と言う馴染みの場所があり、図書館は今もよく利用している。民生委員との交流も密である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	以前は食席を固定していたが、現在は好きな場所に座って頂けるようにし、その場によっては、利用者さん同士の関係性を職員が察知し、席を誘導したりしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人への入所の際には連携し、情報提供を行っている。又、退所後には、お便りと新聞(ご本人様のみの特集)を作り送っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との日頃の会話や内容から意向を把握し、本人様が決定できるように努めている。	日常的な支援から思いや意向をキャッチし、起床時間・就寝時間・居室での過ごし方・日常の生活での利用者自身の役割など、一人ひとりに添った支援を心掛けている。	管理者の希望でもある更なる張り合いのある生活を支援するために、全員で行事やレクリエーションなどを企画・実行しながら、強い絆と心の余裕が持てるような充実した生活が送れるよう期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にご本人様、御家族様、ケアマネージャーに聞き取りを行い、これまでの暮らしを把握し、入所後も今までの暮らしが継続できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりにあった役割を把握し、洗濯干し・洗濯畳み、月に数回、昼食の味噌汁作り等を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1回、3名ずつカンファレンスを行い、必要時にはこれに関わらず、話し合いの場を設けている。職員会議を毎月行い、その時々にあった議題について意見交換を行っている。	毎月のケア会議時に3名ずつ話し合っている。その都度ケアマネに報告している。ケアプランは利用者に説明し、本人が納得の上家族に説明と同意を得ている。すべての情報は職員と共有しプランに沿った支援を心掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌、申し送りノートを活用しており、記録は個別に1日ごとに印刷している。ケアプランをさらに詳しくしたマニュアルを作成している。現在それを24時間シートとして作り変える事を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様の状態や御家族様の希望によっては、他のサービスの利用も行っている。主治医の往診の他、皮膚科・歯科の往診、整形外科の受診をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	香良洲町内の海岸、神社、お大師さん等に散歩やドライブに出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の往診があり、希望や必要時は、本人様・御家族様と相談した上で、皮膚科・歯科等の受診が受けれるようにしている。往診時には、本人様や職員より状態についてお伝えし、検査・治療の提案を頂いている。	協力医による訪問診療が月2回、歯科医が約月1回、皮膚科は月1回と手厚い支援が整っている。利用者や家族の信頼と安心感に繋がっている。また診療内容は毎月の新聞と一緒に家族へ報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護職がおらず、職員間で利用者様の状態把握に努め、必要時はかかりつけ医に連絡を取り指示を仰いだり、往診時に医師に的確に報告・相談できるように、利用者様情報を事前に伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、早急に病院への情報提供を行っている。退院前には病院との連携を図り、退院後の対応・情報を提供して頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、ホームでのリスク（対応基準）をお伝えし、申し込み可能な状態になられた場合は、ホームでの対応できる範囲についての説明を行った上で、特養等への申し込みを提案している。	基本は看取りは現在の環境では考えていない。入浴のレベルや状況を考慮し、主治医・家族と話し合い、そこで事業所での支援の仕方や対応などを説明し、今後について話し合っている。法人の隣接している特養への入所が多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてのマニュアル、連絡網があり、御家族様への連絡優先順位、利用様情報をまとめてあり、職員に周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間4回避難訓練を行っている（法人で2回、グループホームとしては2回）。防災訓練を行う前には想定をし検討会を開き、職員への対応の仕方についての周知を行っている。	事務所内に利用者の情報、救急時の対応の仕方とマニュアル、災害時の訓練方法等資料は整っている。訓練も年間計画の中に位置づけ、法人全体と事業所独自とで行い協力体制も整って居る。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人様の言葉、意思を否定しない対応を指導、実施している。	「一人ひとりの人格」を重視しており、起床時間・入眠時間・日々の暮らし方等、まず利用者の意見を聞き希望に添うように心掛けている。フロアーや廊下の椅子に仲間で自由に掛け時間を過ごすなど、個人を尊重した支援を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、利用者様の思いや希望を伝えられるような関係性を築けるように努め、自己決定が出来る様にし、必要時には御家族様に相談し、対応を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	就寝、起床時間に決まりはなく、個々に応じた生活リズムで過ごして頂いており、レクリエーションへの参加も自由とし、それぞれの希望に添える様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	移動美容室の利用を月1回行う事が出来、希望される方には利用して頂いている。衣類の交換時には、本人様の希望する衣類を着て頂けるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食はグループホーム内で手作りし、昼・夜は厨房からのおかずを盛り付け提供している。昼はホームで汁物を作り、メニューや日によってはホームでのご飯を季節の炊き込みご飯等に変え提供している。	昼食と夕食は法人の厨房からであるが、朝食と毎食の味噌汁・ごはんは手作りである。具沢山の味噌汁は利用者が野菜を切り、味付けは職員である。季節に応じた味ご飯も好評である。買い物は職員だが利用者と出掛ける時もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各テーブルにポットを置き、好きな時に飲めるようにしており、水分摂取についても表を作り、記入し、水分摂取量が分かるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・昼の食後にうがいを促し、行ってもらっている。就寝前には液体歯磨きにてうがいをし、援助が必要な利用者様には、職員が口腔ケアの援助を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄については自立している利用者様が殆どであるが、利用者様に応じては状況によりトイレの声掛けを行っている。紙パンツ・パットの使用を、状態・状況に応じて個々に支援を行っている。	布パンツは3名、パットのみは2名、他は紙パンツであるが殆ど自立である。布パンツや靴下を自室の洗面台で下洗いし、洗濯機に入れる利用者もいるなど自立支援を優先している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事で工夫できる事は行い、内服薬を処方されてみえる利用者さんに対しては、往診医と相談し、なるべく服用せずに過ごせるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用様を班ごとに分け、1日交替で入浴して頂いている。基本的には毎日入浴できる体制を整えており、希望時や必要時には、出来る限り入浴して頂ける様に支援している。	仲良し同士で入浴する等広い浴槽を満喫している。基本的には1日おきに入浴しているが時間は要望に沿っている。利用者の希望で鏡を付けたところ、髪のセットや泡の洗顔を利用するなど、入浴が楽しい時間になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝、起床時間を決めず、個々にあった生活リズムで過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用様の内服薬はファイルにし、職員に周知している。服薬や軟膏変更時は申し送りノートに記入し、軟膏については薬箱・ファイルを作り、入浴時に分かりやすいようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の嗜好、希望について、定期的に聞き取りを行い、出来る限り反映している。個々の生活歴ややりたいことを汲み取り、レクリエーションや日々の対応に反映している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望に応じて、散歩やドライブに出かけている。外出のレクリエーションも徐々にではあるが、人との距離を保てる場所を選び出かけている。	最近は人との距離を保てる場所を選び、近くの海の浜を歩いたり、紫陽花を見に行ったりしている。外出をしたらすぐに写真にしてフロアーに飾り、利用者と色々な話をしながら、外出での楽しかった余韻を味わえる工夫もしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の預り金を法人事務所にて管理している。本人様の希望に応じて、家族様とも相談した上で購入を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話は御家族様と相談し、可能な限り利用者様の希望に添える様に対応している。正月には利用者様が年賀状を書き、ご本人様が希望する所に送らせて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアー、廊下に座れる場所を作り、好きな所で過ごせるようにしている。利用者様にも参加して頂けるような創作をし、共有スペースに飾り、季節を感じて頂けるように努めている。	玄関を開けたらすぐにフロアーが一望でき、明るく開放的である。廊下には昔の暮らしの写真や地元の祭りの写真等が飾ってあり、散歩しながら回想を楽しんでいる。利用者の写真や作品なども飾られ居心地よい場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーには、食席以外にソファーを置いたり、廊下には椅子を置き、利用者様の気分に合わせて、一人から少人数で過ごして頂ける様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたものや好みの物を置いて頂き、本人様・御家族様と配置を考慮し、自宅で暮らしているような空間作りをしている。	明るく広い居室の中に事業所指定のベッドと洗面所があるが、希望のベッドを設置している利用者もいる。畳を敷いてソファーやTV、好きな本や家族の写真等を飾ったりと、利用者の想いに沿った居心地よい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部は開かれた空間にし、一目見るだけでトイレやキッチンがわかるようになっている。トイレの使用が分かるように表示を設けている。		